

2014年2月4日

立つ春に起つ年の計

今日は立春。旧暦の新年も1月31日に迎えましたので、今年は新年立春です。新聞によると業績回復顕著な証券会社では高額な決算賞与を出すそうで、手にする人たちには「こりゃ、春から縁起がいい」。彼らには大いに使ってもらい、“お金は天下のまわりもの”にしてほしいものです。

ばたばたと1月がすぎ、日の出時間も6時台に入る2月ともなると、一年の計が立ち始めます。仕事の計画というだけでなく、公私共の全体の様子というか、流れというか、展開というか。何より自身の気持ちや心境の変化が訪れます。これは女性の方が顕著のようですが。

何がそうさせるか。おそらく陽光の変化によるのだろうと思います。冬から春の陽射しに変わったことを視覚や触覚をとおして頭と体を刺激し、新しい始まりを感じさせる。寒く沈んだ陽光の下ではじっとしていた“青い”感性が、俄かに内側から動き始める。年齢を重ねるほど濃い青となって。

あまりに濃くなり「紺青」からさらには「漆黑」になってしまつては、自身の中の変化にも気づかなくなるかもしれません。ひいては、新しい流れや展開をみすみすやり過ぎて、新年の計の良いきっかけを逃してしまいそうです。逃しても現状に依じて計は立てられますが、質が違います。

今の時季、特に意識して自身の内側に気をとめておきたいものです。外の世界のちょっとした変化や人からの働きかけなどに注視、“注聴”。これってどういうことだろう、どういう流れだろうと、自身に問うてみる。そういう習慣がもう身についているという方はともかく、そうでない方は、どうぞお試しを。



「甲午」年にあやかり

偶然見合わせたお正月のテレビ番組、これも何かの縁と感じて、新年早々に出かけたのが、近江八幡の「賀茂神社」。馬の守護で有名だそうです。宮司さん曰く『今年は甲午年。午は午でも始まりの午で、特別な午の年なんです』。



知るところ「甲午」には、“夏の木”、“夏の代表”という意味もあります。その年の干支は立春から始めるとの捉え方もありますから、まさに今日がその日。

そんなこんな意味づけをうまく活用するのも一考です。ひと月前の年末年始に一新した気分気持ちにエンジンをかけ、夏の草原を悠々とかけまわる馬のように、緩急自在に大らかに、この一年を疾走していきたいものです。

久々に使った、「チャールミング」

一月中旬に仕事で会った高年の職人畑経営者。この方を評して口をついて出たのが、「チャールミング」。ご本人に直接ではありませんが、言った後で、そういえば最近あまり使わなくなったと感じた。

よく使われた頃は、若い女性への褒め言葉だったように思います。辞書には「非常に感じのよい、魅力的な、楽しい」と説明してありますが、

「非常に感じがよい」に該当するのはなかなか難しそうです。

初対面でも気さくに、親しみある話し方で、相手の腰を折ることなく、自分の意見も率直に話して、相手からも親しみを誘い、場を和ませる雰囲気がある。こんな場合に、“非常に感じがよい”、話していて“楽しい”。

冒頭の経営者は男性。チャールミングな高年男性が増えると、社会はさらに活性化しそうです。

LEE'S リーズ
http://www.leeslee.com
〒530-0012
大阪市北区芝田2丁目8-15
北梅田ビル35号
リー・ヤマネ・清実